

令和元年度第1回新発田市子ども・子育て会議 会議録 概要

会 議 名	令和元年度第1回新発田市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和元年7月26日(金) 午前9時30分～11時30分
開 催 場 所	地域交流センター 屋内広場
議 事	1. 平成30年度新発田市子ども・子育て支援事業計画の実績報告について 2. 新発田市子ども・子育て支援事業計画の策定について
出 席 者	<p>【委員】 金山会長、木村副会長、大堀委員、伊藤委員、斎藤委員、加藤委員、皆川委員、平野委員、小林委員、藤田委員、高橋委員、青木委員</p> <p>【説明課】 (健康推進課) 阿部課長、(青少年健全育成センター) 井越所長、 (学校教育課) 萩野課長、(地域安全課) 中野課長、 (人権啓発課) 伊藤課長、(社会福祉課) 坂上課長</p> <p>【事務局】 (こども課) 沼澤課長、佐藤課長補佐、杉山課長補佐、鈴木副参事、吉田係長、 宮下主事</p>
欠 席 者	松田委員、井上委員、佐藤委員、吉井委員、中山委員
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	4人
配 布 資 料	<p>①「令和元年度第1回新発田市子ども・子育て会議次第」及び「委員名簿」 ②新発田市子ども・子育て会議席次表 ③平成30年度新発田市子ども・子育て支援事業計画 事業実績一覧(第4章) ④平成30年度新発田市子ども・子育て支援事業計画 事業実績一覧(第5章) ⑤第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について ⑥子ども・子育て支援事業計画(第3章) ⑦新発田市の現状(第2章) ⑧新発田市子ども子育てに関するニーズ調査結果報告書<概要版></p>
〈会議経過〉	開会

議事1 平成30年度新発田市子ども・子育て支援事業計画の実績報告について

各課説明	平成30年度新発田市子ども・子育て支援事業計画の実績報告について各々説明
加藤委員	保護者からの話であるが、「放課後児童クラブと一部の小学校で行われている放課後こども教室、この両方を利用しようとする保護者の負担する費用が両方かかってしまう。」という意見があった。ただ、実際行われている時間帯は学校が終わった放課後の時間帯で「費用が両方かからないよう一体的に運営される」そういった事ができないものか。
育成センター	放課後児童クラブについては、利用料が月額3,000円。放課後こども教室については、利用料が無料で最低限の資料料おやつ代が1,000円という状況である。その他に、年間保険料がそれぞれ1,000円かかる。
加藤委員	こども教室については、利用料が掛からないということで理解した。
皆川委員	乳幼児健診で100%でないものがあるが、先程の説明で、「必要な人が受けている」との話であったが、必要でない人がいたということなのか。
健康推進課	<p>新生児訪問の説明と同様であるが、「その時期にたまたま市内にいなかった」、また、「下のお子さんの里帰りを受けていないお子さんがいた」などの理由であり、95%以上というのは高い率である。</p> <p>親御さんの都合で受けていない場合など少し心配な方には、家庭訪問等で状況を把握し、全く把握していないということはない。受けていない多くは、病院で受けたとか、保育園・幼稚園で受けているのでいいという方である。なるべく健診を受けていただくよう案内を差し上げているが、なお、受診いただけなかった方が若干おられたという数字である。</p>
皆川委員	<p>この会議に長く出席していて、以前から障がいのあるお子さんの放課後の受け入れをお願いしてきた。</p> <p>今は、児童クラブ、放課後等デイサービスで受け入れていただいているので、大変ありがたいと思っている。</p> <p>障がいのある親御さんとの交流のなかで、「利用できるものが広がってありがたい。」「障がいを持つ子どもたちは、突然、いろんな行動を取ってしまうので、職員、また一緒に通っている子供達に迷惑をかけることがあり、気が引けることや、職員から大変なことがあったと報告があると申し訳ないと思いながら、でも受け入れてくれることは有難い。」と聞いている。</p> <p>ただ、本当に障害のある子も親も当たり前生きて行きたいというか、何をするにも</p>

青木委員	<p>障害があることを気にせずに、大威張りで通わせたいなという気持ちが本当のところである。気持ちは大きいですが、障がいがあっても当たり前生きて行ける、受け入れてもらえるようになってもらいたいと思う。</p>
青木委員	<p>障害児保育で園に144人が通っているとのことであるが、車いす、人工呼吸器をつけているなど障がい内容と人数がどのようになっているのかお聞きしたい。</p> <p>相談を受けている中で、人工呼吸器をつけている未就園の子がいるが、その子はどこにいけるのか。ひまわり学園には看護師がいない。他市で酸素の管だけ鼻からつけていて、酸素の機械をお母さんがもって子どもと動いている姿を見た。そういう子たちが沢山出てくると思う。そういう子たちを通わせたい場合に、医療ケアの必要なお子さんを今後受け入れてくれる園があるのか。</p> <p>今すぐ内訳はわからないと思うが、検討いただけたらありがたい。</p>
こども課	<p>園児数の内訳を今持ってきていない。相談室の方で把握しているものになるが各園で通っている障がいのあるお子さんについては、ほぼ発達相談室と連携を取って園での生活が楽しいものである、安全なものであるように支援させていただいているところである。</p> <p>医療的ケアを必要とするお子さんの入園についても国から通知があったが、どこの園が一番先に手をあげられるのかと課の中でも話し合っているところである。</p> <p>今までニーズが無かったからやってこなかったことではあるが、今後は、お母さんたち・お父さんたちのキャリアを守っていく部分でも必要になる保育ではないかと認識しているので、実施するにあたっては当会議でご相談させていただきたいと思う。</p>
青木委員	<p>市で対策を考えてもらえるのか心配している1歳・2歳児のお母さんに「相談に乗ってもらえる」と伝えられるので、相談があった際には、宜しく願います。</p>
高橋委員	<p>西区の事件があったときに、下校時に学校の先生でない地域の方か誰かが一緒に付き添ってくれたと聞いた。誰が来て下さったのか疑問だった。地域安全課から地域の防犯連絡協議会について説明があったが、事件が起きたときに、そういう仕組みがあるのか。</p>
地域安全課	<p>地区の連絡協議会の活動だと思う。普通の普段着だと不審者なのか見分けがつかないため、大体は市の補助金等を活用した黄色いベストを着ているか腕章などをしている。</p> <p>誰がどこの学校に行つてという詳細な内容は把握していないが、基本的に防犯協議会の方であればベストか腕章などをして一緒に歩いているような状況である。</p>
大堀委員	<p>ファザーリンクジャパンという父親支援の活動をしている。昨年は健康推進課と父子手帳を作らせていただいて、スポーツ推進課とストライダーをやったりだとか、いろんな活動で父親が育児に参加することによって、母親の育児が解消されたりだとか、虐待</p>

が予見されたりだとか間接的な支援になっているのではないかと私は思っている。

今年の厚生労働省の最新の発表で、男性の育休の取得率が6%台にあがった。去年は5%その前がずっと2%から3%台を10年間くらい繰り返してきたが、やっぱり男性の育児という部分がすごく上がってきている。これは全国平均だが、新潟の平均は直近で去年3.8%の取得率でちょっと遅れている。でも間違いなく全国的な流れとして取得が促進されて、育児、家事に携わる父親が増えてくるだろうと予見される。現在、健康推進課の方で妊婦向けとか母親向けとかいろんな講座があると思うが、現状として父親向けの育児に対する教育とか家事もそうだと思うが、男女共同参画の取り組みでもあり各課が連携しなければいけないことだと思うが、今現状はどういう感じなのか。

健康推進課

健康推進課の状況として、今現在、父親専用の講座はない。ただ、すこやかマタニティー教室では、妊婦とパートナーと一緒に参加を呼び掛けていて、参加する半数程度がペアで来ているという状況である。ただ、男性に参加していただくことも非常に重要ではあるが、ただ、ペアで来てくださいますと言うと逆に一人で来難くなる場所もあり、呼びかけの仕方を検討して参りたい。

大堀委員

最近、妊娠の間のプレパパ・ママ向けみたいなセミナーが多くなってきていて、そのタイミングが非常に私も良いと思っている。特に、男性の意識が変わるのが生まれてからしか父親はスイッチが入らないので、早い段階からワークライフバランスを考えたりだとか、家事・育児のシェアを考えたりだとかというタイミングをできるだけ、今後、作っていただくことで、母親の育児がもう少し楽になって女性の活躍が進むだろうと考えている。次の議題だと思うが、そういったものを検討していただきたい。

斎藤委員

10月から保育園幼稚園の無償化がスタートする。それに伴い給食費を保護者が負担することになる。市と私立幼稚園・保育園の代表と給食費について相談し、私立の実情も加味していただき、公立と私立でできるだけ差の無い副食費、主食費がまとまった。

地産地消事業では、「学校給食においては地産地消をしています」ということを謳っている。けれども私立園では、できるだけ保護者の負担を小さくするためには安いものを買わなくてはいけない、けれども安全なもの安心なものを何とか考慮していく、ギリギリのところで行っている、地産地消まではなかなか出来ない。例えば、食と緑のしばたっ子事業で、各園に補助金が出ているので、そうしたものを利用できるようなシステムを作っていただくのが良いのか、それとも地産地消を学校教育だけでなく私立の幼稚園・保育園にも補助金を付けてということが可能なのか、この場で話し合うものなのか分からないが、話をさせていただいた。

こども課

貴重なご意見でありがたい。保育園・幼稚園・こども園での給食の副食費について、国の無償化が始まることによって、市でも本気で見つめているところである。公立園では学校給食にならった仕入れの仕方をしながら、地産地消を取り入れるということも可

能な部分が多いと思っているが、確かに私立のそれぞれの園において、どこから仕入れ何を使うかについては園にお任せしているところであるので、今日の斎藤委員のお話の、「学校では地産地消を一生懸命やっているのにその前の段階からできないのか」は、今後の課題として受け取らせていただきたいと思います。

出席委員全員挙手で、「次第3」議題（1）「平成30年度新発田市子ども・子育て支援事業計画の実績報告について」は原案通り承認された。

議事2 「新発田市子ども・子育て支援事業計画の策定について」

こども課

議事（2）の「新発田市子ども・子育て支援事業計画の策定について」担当から説明。

青木委員

資料の「新発田市の現状」では、給付費に関わるデータが入っていると理解しているが、計画全体を考えるにあたって、基本目標に関わるような、例えば「発達相談室の相談件数がどれくらい増えているのか」「特別支援学級の生徒数がどれくらい増えていて、どういった対策が取られているのか」「不登校のお子さんはどれくらいなのか」「いじめの認知度はどれくらいなのか」などの数値、こういうことも計画の目標にある「心身の健やかな成長に資する教育環境の整備」などを検討するにあたっての数字になると思う。「不登校のお子さんがさわやかルームに何人通われているのか、さわやかルームに通われていない不登校のお子さんが何人くらいいるのか、その人数が増えているのか減っているのか」「同和教育対策を取られているが、いじめに関してはどれくらい認知されているのか」といったこどもたちの環境について疑問に思う。

こども課

「新発田市の現状」は、国の統計や13事業など、第5章に関するデータがメインになっている。第4章の部分に当たるそれぞれの施策の展開の部分の統計値が無いとのことであるが、こちらについては、担当課と調整を行いながら、計画自体にはなかなかページ時数の制約があり全て載せるのは難しいため、精査しながら進めて行くことになる。必要であれば会議の中でお示しできればと思うが、担当課と調整が必要になるので、今ここで全てできるとはお答えできないが検討はさせていただく。

学校教育課

いじめの認知件数の話があったが、新潟県も文科省の方も、件数が少なければいいという発想ではない。いじめを見逃さずに、しっかりと発見をして、対応するというのが、いじめの対応ということになっている。いじめの定義を皆さんに良く理解をしていただかないと数字だけが独り歩きをしてしまう。いじめの認知件数が少ないから新発田はいいとか多いからわるいという問題ではないと思う、数字の怖さというのもあるので数字を載せるところに関しては、良く検討させてもらいたいと思う。

木村副会長

「基本目標の5 職業生活と家庭生活との両立の推進」で質問したい。
今、新発田市の方では、現状の分析と課題の整理をされているところだと思うが、調

<p>人権啓発課</p> <p>木村副会長</p>	<p>査結果からの課題を整理していただいた。</p> <p>この中の母親が育児休業を取得していない問題に対して、今後の課題に「育児休業だけでなく、事業所等への啓発が必要」と記載がある。まさに職業生活と家庭生活との推進のためにはここがポイントだと労働者を代表する委員としては思っている。</p> <p>人権啓発課では毎年、年1回、市内の企業向け事業者の方を対象に啓発活動を行っているというのは承知している。人権同和問題をテーマに数年行われていると思うが、こちらのテーマも非常に大切なので、年1回の実施は必要だと思う。例えば、職場環境の改善に向けた啓発活動にテーマを絞った講演会を別途行う。年2回こういった研究会・研修会の実施を計画に盛り込むことは難しいのか伺いたい。</p> <p>市では、企業向けの人権の問題研修会を行っているが、どちらかというと採用の時の差別に特化した内容で今まで行われてきたので、今の話は非常に大事な点だと思う。職場環境に絞った研修会の話であると思うので、今後のこういった面について検討させていただきたいと思う。今年については計画が進められているところがあるので、今後ということにはなるが、こういった視点を持たなければならないと感じたので考えさせていただきたい。</p> <p>そういった啓発が進んで、母親・父親の育児休暇の取得率が上がることを願っている。</p>
	<p>出席委員全員挙手で、「次第3」議題（2）「新発田市子ども・子育て支援事業計画の策定について」は原案通り承認。</p>
<p>議事3 その他</p>	
	<p>なし</p>
<p>その他</p>	
<p>事務局</p>	<p>事務局から連絡。会議録は、作成後、出席者の皆様に確認をお願いし、概要について、市ホームページに掲載する。</p>
<p>閉会</p>	